

(様式1)

## 「令和元年度ふくしま『学びのスタンダード』推進事業」推進地域の取組

パイロット校名	本宮市立本宮第二中学校, 岩根小学校
推進協力校名	本宮市立五百川小学校

### 本宮二中学区 「学びのスタンダード」

本推進地域では、授業改善・「タテ持ち」と「教科担任制」・家庭学習・授業の基盤づくり、この4点について、各々の実態に応じた実践を行い、円滑な小中の接続に努めてきた。

#### 1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

##### (1) 「授業スタンダード」による授業改善

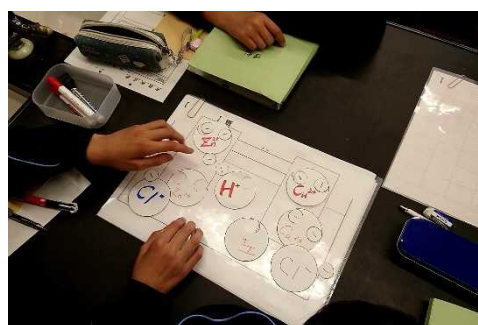
本地域では、各校の実態に応じ、「授業スタンダード」を参照しながら授業をデザインしている。

小学校では、導入場面・展開場面・振り返りの場面それぞれに指導の工夫を行った。新たに展開場面では、リーディングスキルテストの分析から科学的根拠に基づいて児童の実態を把握することにより、児童のつまずきを想定し、適切な手立てを研究する実践を積み重ねた。

中学校でも、導入場面・展開場面・振り返りの場面それぞれに指導の工夫を行った。特に展開の場面では、生徒の資質・能力の育成を図るために、「深い学び」を促す手立て、各教科の見方・考え方を働かせ、思考させるのに有効な手立てを研究する実践を積み重ねた。



【小学4年生 算数の授業】



【中学3年生 理科の授業】

#### 2 パイロット校の取組内容

##### (1) 「タテ持ち」・「教科担任制」の実践

	4年2組	5年2組	6年1組	6年2組
算数	S教師TT	S教師TT	S教師	A教諭
国語			S教師	S教師
音楽			S教師	S教師
理科			A教諭	A教諭

【小学校 教科担任制】

	数学	1組	2組	3組	4組
1年生	A教師	B教師	C教師	C教師	
2年生	A教師	B教師	C教師		
3年生	A教師	C教師	B教師	B教師	

【中学校 タテ持ち】

小学校では、4・5・6年生で「教科担任制」を実践した。4・5年生は、教科担任と学級担任とのTTで授業を進めることで、児童の学習に対する不安解消につなげてきた。

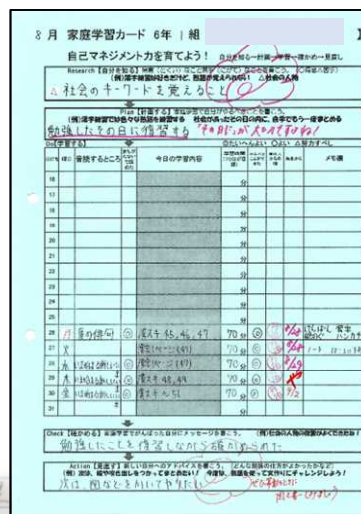
中学校では、本年度も数学科での「タテ持ち」を実践した。3年目になったことで共通理解が進み、現在では教科部会を設定しなくとも、普段からの情報交換や定期テストの検討を行うことで指導内容・方法への理解を深めることができた。

## (2) 「家庭学習スタンダード」による家庭学習の充実

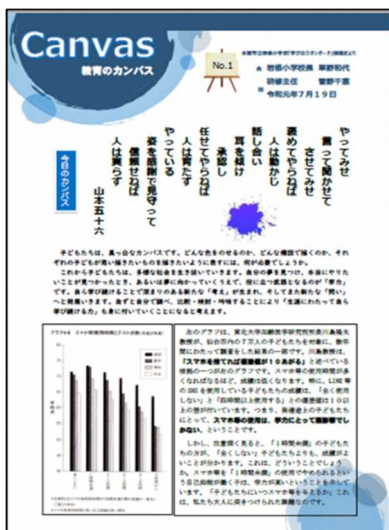
小学校では、自己マネジメント力を高めるために、家庭学習の手引と発達の段階ごとにカードを作成し、活用した。

中学校では、昨年度からの実践である「自己マネジメント力向上プロジェクト」に加え、下校前に家庭で取り組む学習について生活ノートに書く時間「もりもりタイム」を設定した。

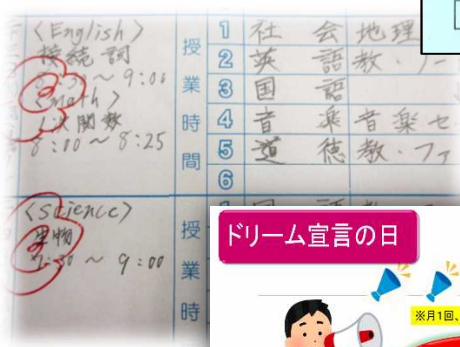
また、家庭への働きかけについては、お便りを通して児童の学習の姿を共有したり、生徒が家族に将来のことや頑張ることを宣言したりする「ドリーム宣言の日」を設けたりした。



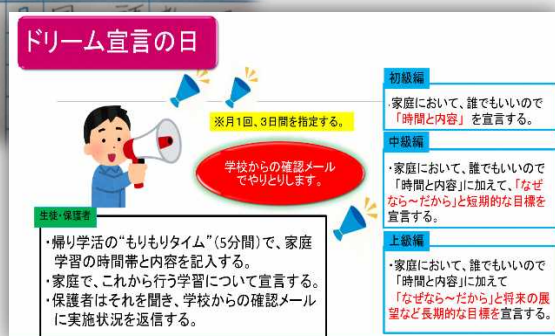
【小学校の記録カード】



【家庭へのお便り】



【中学校の生活ノート】



【ドリーム宣言の日 概要】

## (3) 授業の基盤づくり

安心して意見を言うことができ、安心して生活することができる学級。このような温かな学級づくりが、授業の基盤になるとともに学力向上により影響を与えると考え、小学校では学級活動の一層の充実を図った。また、中学校では学級力向上プロジェクトを実践した。



【学級活動の充実 板書】



【学級力向上プロジェクト 概要】

### 3 推進協力校の取組内容

#### (1) 「家庭学習スタンダード」による家庭学習の充実

「家庭学習スタンダード」をもとに、「自己マネジメント力アップカード」を作成し、4年生以上で活用した。

帰宅後に家庭で取り組みたいこと（学習、読書や手伝いなど）を学校で書き、実際にできたかどうか家庭で保護者にチェックしていただいた。子どもたちのモチベーションを高めるような声かけや称賛を行うとともに、家庭とも連携して、継続した取組ができるよう支援した。その結果、家庭でも学習することが当たり前という意識付けをすることができた。

【自己マネジメント力アップカード】

#### (2) 講演会・推進地域学力向上研修会の実施

千葉大学准教授の小山義徳先生を招聘し、推進地域三校の全ての職員が参加する講演会を実施した。「児童生徒の問いに基づいた授業のつくり方」というテーマのもと、児童生徒の「問う力」を育てるために必要なことや、ルーブリック評価の講話をいただき、授業改善への新たな視点を共有した。



【講演会】

また、いくつかの分科会に分かれ、児童生徒それぞれの現状を話し合い、学力向上への方策を地域全体で共有することができた。

### 4 3年間の取組から見えた成果と課題

#### (1) 成果

- 小学校では、リーディングスキルテストの分析から科学的根拠に基づいて児童の実態を捉え、適切な手だてを講じてきた。また、中学校では生徒の「深い学び」を促す有効な手立てを講じてきた。これらの実践の中で児童生徒の学びの現状やその変容を深く見詰め、教師の学びを見取る意識と力を高めることができた。授業改善は着実に進んでいる。
- 小学校では、高学年の一部の教科で教師の専門性を生かした「教科担任制」を実施し、中学校の授業への円滑な移行を図った。また、中学校では数学科において教科特有の系統性を生かした「タテ持ち」を実践することにより、学びの連続性への意識付けにつながった。
- 家庭学習の充実や授業の基盤づくりに向けた共通実践により、家庭学習の環境や学級環境が好転しており、円滑な小中の接続につながった。

#### (2) 課題

- 小学校では「教科担任制」と「学級担任制」、中学校では「タテ持ち」と「ヨコ持ち」それぞれによさや課題がある。児童生徒の情報を共有し、指導について議論する時間や方法などを全体の課題として、解決に向けて努力したい。